

オフィスにおける活動

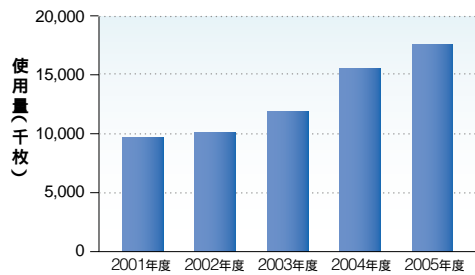
# インプットとアウトプットを削減・適正化しています

紙と電気の使用量削減、ごみのリサイクル、グリーン購入を中心に取り組んでいます。

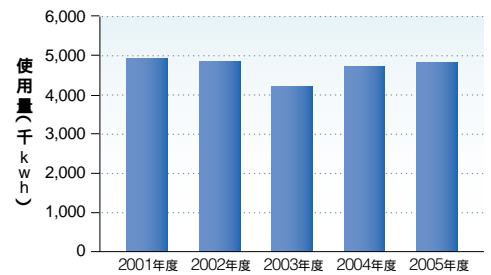
## 紙と電気使用量削減への取り組み

コピー用紙と電気使用量の削減については、各部門でオフィス環境推進者を選任し、コピー用紙と電気使用の運用ルールを定め、使用量の削減に努めています。コピー用紙の使用量が増加していますが、これは見積り業務の増加に伴う提出書類の増加によるものです。電気使用量は、猛暑・厳寒でしたが、クールビズ・ウォームビズ活動を行ったため、ほぼ昨年と同様の使用量で収まりました。

オフィスでのコピー用紙使用量(A4換算)



オフィスでの電気使用量



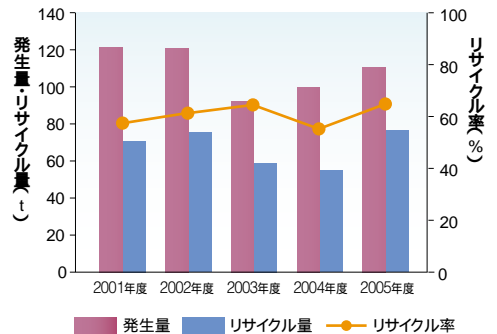
## ごみリサイクルの推進

全支社店でオフィスでのごみリサイクルに取り組んでいます。主要オフィス(東京・大阪でのビル)では2005年度と2004年度とを比較すると、ごみの発生量が少し増加しましたがリサイクル率は向上しました。

ごみの種類別発生量とリサイクル率

| 種別     | 2005年度 |           |           |
|--------|--------|-----------|-----------|
|        | 発生量(t) | リサイクル量(t) | リサイクル率(%) |
| 紙      | 71.9   | 42.4      | 59.0      |
| 新聞     | 9.3    | 9.3       | 100.0     |
| 雑誌     | 11.3   | 11.3      | 100.0     |
| ダンボール  | 7.1    | 7.1       | 100.0     |
| 缶・ビン   | 2.8    | 2.8       | 100.0     |
| プラスチック | 6.9    | 0.6       | 8.7       |
| その他    | 6.6    | 2.8       | 42.4      |
| 計      | 115.9  | 76.3      | 65.8      |

主要オフィスでのごみの発生量



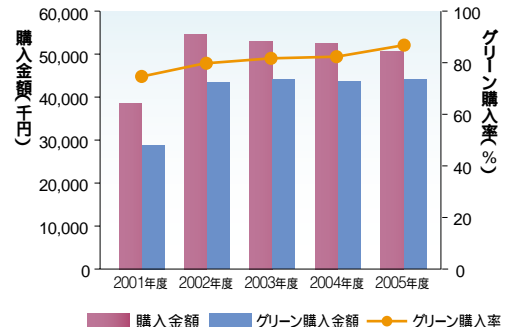
## グリーン購入活動への取り組み

全社のオフィスでグリーン購入に取り組んでいます。グリーン購入率は少しずつではありますが、毎年向上しています。今後は、文具と外注印刷物でのグリーン購入比率を高めるための取り組みを進めます。

品目別グリーン購入比率

| 品目      | 購入金額   | 2005年度       |       |
|---------|--------|--------------|-------|
|         |        | グリーン購入金額(千円) | 割合(%) |
| 文具      | 11,603 | 9,392        | 80.9  |
| OA用紙    | 10,029 | 9,944        | 99.2  |
| 名刺      | 8,352  | 8,352        | 100.0 |
| 外注印刷物   | 19,541 | 15,500       | 79.3  |
| トイレトーパー | 902    | 902          | 100.0 |
| 計       | 50,427 | 44,090       | 87.4  |

グリーン購入



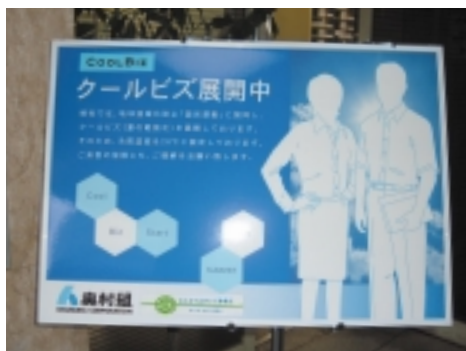
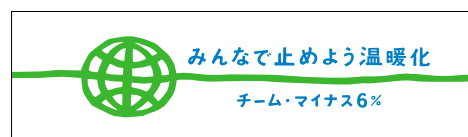
## 「チーム・マイナス6%」への参加

「チーム・マイナス6%」に参加しています。地球温暖化防止のため、自分たちにできる6つの行動を具体的に行っています。

### アクション

- 1.室温を冷房時28、暖房時20にする
- 2.蛇口をこまめに閉める
- 3.エコドライブをする
- 4.エコ製品を選んで買う
- 5.過剰包装を断る
- 6.コンセントをこまめに抜く

たとえば、クールビズ活動ではノーネクタイ。ウォームビズでは1枚余分に着ることで適温に調整しています。



啓蒙活動ポスター(クールビズ)



啓蒙活動ポスター(ウォームビズ)

## 緑の地球防衛基金への協力

(財)緑の地球防衛基金に、使用済みプリペイドカードや切手などを寄付しました。寄付したカード類は同基金から業者を通じて収集家などに販売され、その資金でタンザニアや中国などでの植林活動に充てられます。2005年度はプリペイドカード3,450枚、切手24,639枚などを寄付しました。



寄付したカードや切手

環境配慮新技術の開発

# 環境負荷の低減に貢献する新技術を開発しています

水質浄化、バイオマス利用、環境創造、建物環境整備などに寄与する、環境適合技術の開発に取り組んでいます。

## 水質浄化技術への取り組み

### 栄養塩類対応型コンパクトウエットランド

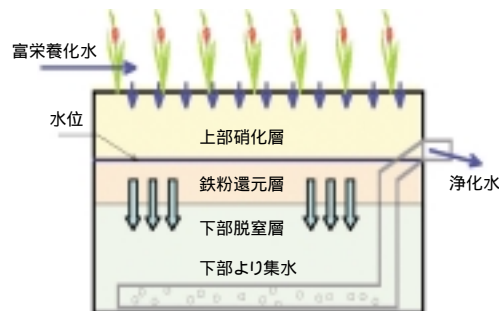
コンパクトウエットランドは独立行政法人土木研究所等と共同開発したもので、糸状の生物担体による河川等の水質浄化と、浸透流タイプの湿地浄化を組み合わせたシステムです。当社ではその技術をベースに、富栄養化対策として栄養塩類対応型コンパクトウエットランドを開発しました。窒素、りんといった栄養塩類に対応できるうえ、省面積で高効率な処理可能なため、都市部においても設置できるローメンテナンス型の水質浄化施設です。下水処理場からの栄養塩類豊富な放流水を親水施設やビオトープに用いる場合などに利用します。



栄養塩類対応型コンパクトウエットランド



ビオトープへの利用



## バイオマス利用技術への取り組み

### 液肥による野菜栽培

バイオマス利用技術の一つの試みとして、有機性の残渣(食品残渣)を発酵させて作った液肥(活性液)によるイチゴやタマネギの実験栽培を行っています。活性液はアミノ酸、有機酸や各種ミネラルが豊富で弱酸性のため腐敗せず、長期保存が可能です。実験栽培圃場(イチゴ、タマネギ)では、慣行農法(化学肥料)との比較実験を実施し、品質(糖度や酸度)、収量および土壌の変化についてデータを集積しています。



高速液肥製造機



実験栽培圃場(イチゴ)



## 環境創造技術への 取り組み

### 建物屋上緑化システム

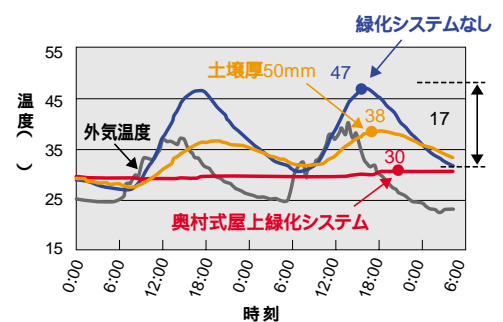
都市のヒートアイランド現象を抑制するとともに、植物からの蒸散効果により周囲の温度上昇を防ぎ、無機質な屋上に潤いのある快適空間を提供します。日射の遮断と断熱効果もありますので、建物の空調負荷を低減して省エネルギーに貢献できます。

軽量でコンパクトなユニット型プランター方式の屋上緑化システムは、施工が容易で新築建物だけでなく既設建物へもスムーズに適用できます。また、工場建屋など折板屋根の屋上に設置できる屋上緑化システムは、屋根の紫外線劣化等に対する耐候性も向上します。



プランター方式屋上緑化システム施工例

試験施工での屋根スラブ下端温度の実測値

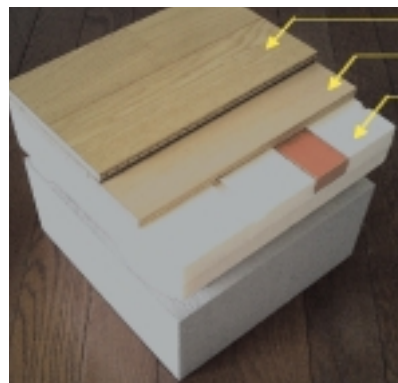


## 建物環境技術への 取り組み

### 防音フローリング床システム

近年、集合住宅の居住性能への関心が高まり、高度な性能が要求されるようになってきました。最近では、建物の性能を設計段階から積極的に表示していく日本住宅性能表示制度が整備されています。本床システムは、現場における実測結果をもとに日本住宅性能表示制度の特別評価方法認定<sup>(注1)</sup>を取得し、重量・軽量各床衝撃音に対して高度な遮音性能を達成した高性能床仕上げ材を用いたシステムです。さらに、床下地材には断熱材として発泡プラスチックを採用しているため、断熱効果が高く床暖房などの効率が良くなります。

注1：特別評価方法認定とは、日本住宅性能表示制度の評価方法基準(告示)の範囲外の場合や告示よりも上位等級を確保できるものに対する認定制度です。



防音フローリング材

捨張り材

発泡プラスチック  
床下地構造材

